

カテゴリF5 一般規則

ラジコンコンテストの為の技術的な規則

5.5 カテゴリF5 電動模型飛行機

5.5.1 一般的なルール

5.5.1.1 模型飛行機の定義

制御用の動翼以外は固定された固定翼機、またはヘリコプターの場合には回転させることにより翼面に作用する空気力学的な力によって飛行する模型飛行機であること。操縦は地上のパイロットにより無線制御を使用して制御される。モーター用の電源はいかなる方法を用いても地上、または空中の他の模型飛行機と接続してはならない。太陽電池による飛行中のパワーパックの再充電は許可する。

5.5.1.2 模型飛行機のビルダー

B.3.1 ルール 4bの(モデル航空機のビルダー)は、カテゴリF5には適用されません。

5.5.1.3 F5RC 電動模型飛行機の一般的特徴(ヘリコプターは 5.5.6.2 を参照して下さい。)

最大合計翼面積 150dm²

最大重量 5kg

翼面荷重 12~75g/dm²(パイロンレーシングは 5.5.6.2 を参照)

- 電源はすべての充電式電池(または二次電池)のいずれかの種類で構成されなければならない、最大無負荷電圧は42ボルトを超えないといけない。電圧が測定される場合、パイロットの準備時間内に行われなければならない。測定が行われた後、パイロットは5.5.2.4に従って5分の準備時間が許可されている。
- F5B、F5DとF5Fのバッテリー仕様は、これらのクラスの特典な規則で別に記述されています。
- 個別の電池に重量を減らすために機械的または化学的な改造をすることは許可されない、ただし個別のセルの絶縁スリーブの変更は認める。
- 機体からパイロットに情報の送信は、信号強度および受信機バッテリーの電圧を除いて禁止する。

5.5.1.4 エネルギーリミッター

エネルギーリミッター/ロガーは、バッテリーとモーターとの間の電気回路内に位置しています。エネルギーリミッターの場合、切断は恒久的、または定義された時間にわたって維持されます。コンテストの主催者は地上にデータを送信供給することができる「リアルタイム無線遠隔測定ロガー」を提供することも出来ます。この場合エネルギーデータとモーターデータはパイロットにも利用できるようにしなければならない。

5.5.1.5 リミッターをチェックする手順

- リミッターチェックの一般的な手順は、国際コンテストの一般規則中のセクション 4B の B.17 の通りである。
- チェックは着陸した直後に実施されなければならない。すべてのリミッター/ロガーは、同じ方法を用いて試験しなければならない。リミッター検査装置は、外部デバイスまたはモデル内で使用される装置であってもよい。
- 主催者はリミッターが正しくRX、リポパック、ESCに接続されているかチェックします。RXケーブルや電流センサへの「ジャンパー」は、どのようなタイプであっても認めません。
- 各モデルのリミッターはチェックシステムとつないでチェックできるように、6mmのコネクタを使用する必要があります、他のタイプのコネクタの場合では、競技者は主催者が使用する6mmのコネクタに合わせてアダプタを用意する必要があります。
- リミッター、アダプターのコネクタはテストユニットに接続することができるように、JRまたはフタバコネクタとする。
- 測定は可能な限り典型的な飛行をシミュレートするため可変電流負荷を使用する必要があります。

- g) 主催者は各カテゴリのエネルギー測定に SM UNILOG または同様のデバイスを使用しなければならない。
- h) リミッターの測定には 2%の誤差が許容される。
- i) 競技者はコンテストの前および間にリミッターをチェックすることが出来る、その場合、動力源として満充電されたリチウム電池を提供する必要があります。

5.5.1.6 模型飛行機の数

競技者は、コンテストでは、F5B、F は 2 機の模型飛行機、パイロンの場合 3 機を使用することができます。競技者はコンテスト中にこれらの模型飛行機の部品を組み合わせたことができます、ただしその結果の飛行機がルールに準拠しており、部品は、コンテスト開始前にチェックされていることを条件とする。

5.5.1.7 選手とヘルパー

各選手は個人的に自分の無線装置を操作しなければならない。各選手には、2 人のヘルパーとチームマネージャーが許可されています。

5.5.2 コンテストのルール

5.5.2.1 公式飛行の定義

- a)
 - ① 競技者は2分間のスタート作業期間中何度でも発向を試みることが出来ます。(例外 F5B、5.5.4.4 d)発向は競技者または彼のヘルパーの手から放たれた時に開始されます。
 - ② 最初の試みの後は別の模型飛行機を使用することは許可されません。
 - ③ タイムキーパーは、各試行毎にタイミング・デバイスを起動します。
 - ④ 作業時間の 2 分経過後は発向を試みることは出来ません。
 - ⑤ そのとき機体が飛行中か否かに関わらず公式飛行と見なされます。
- 選手は次の場合にのみ再度の 2 分間の開始期間を得ることが出来る。
- b) 外部からの干渉があり飛行が出来なかったことが、主催者によって認められた時。
 - c) 何らかの理由で得点が記録されなかった場合、このような場合には、コンテストディレクターによって決められた時間に再飛行することができる。

5.5.2.2 フライトのキャンセルと失格

以下の場合、フライトは失格とされます。

- a) パイロットが FAI の規則に準拠していない模型飛行機を使用している場合。ルールの故意または目に余る違反の場合には、コンテスト ディレクターの判断で、競技者を失格とすることができます。
- b) 模型飛行機が飛行時間中にその機体の部分を失った場合。(他のモデルとの飛行中の衝突、着陸時の地面や他の障害物との接触による部品の落下は例外とします。)
- c) 同じ試合で他の選手が既に使用した機体を使った場合。
- d) パイロットが2人以上のヘルパーを使用している場合。
- e) 着陸地点から 100 メートル以内に機体の一部または全部が着陸していない場合。パワードグライダーの場合、このルールは滞空と着陸タスクが開始した後にのみ適用されます。
- f) パワードグライダーの場合、着陸が滞空と着陸タスクが開始されていない場合、着陸がベース A と B との交点から 100m 以内でなかった場合、セキュリティラインの指定された飛行側内でない場合。
- g) 選手が宣言とは反して許容数を超えたセル数または 42 ボルト以上の動力電源を使用した場合。模型飛行機が選手以外の人によって制御されている場合競技者は失格とされる。模型飛行機が着陸時に選手またはヘルパーのどちらかに触れた場合、着地点は与えられない。エネルギーリミッタールールの違反があった場合、そのラウンドの結果は破棄されます。

5.5.2.3 コンテストの組織

送信機と、周波数制御に関しては 4b、B.8 を参照してください。

5.5.2.4 開始の組織

競技グループは、使用される無線周波数に応じて、可能な限りの同時飛行が出来るようなグループに組み合わされなければならない。組み合わせは可能な限り1つのグループに同じ国、または同じチームのパイロットが存在しないような方法で編成されるべきである。異なるグループの飛行順序も使用される周波数に応じて設定される。選手は開始前に5分間の準備時間を受けることができる。

5.5.2.5 エネルギーリミッターの検査

イベントの主催者は、エネルギーリミッタ検査用電源装置を提供しなければならない。競技者がコンテストの前および期間中にリミッターをチェックすることが出来るようにする必要があります。

5.5.2.6 ジャッジ

主催者は公式の CIAM 審判員から少なくとも 3 人の異なる国籍の審判員を任命しなければならない。

注:これらの一般規則およびコンテストのルールは、F5 クラスに適用されます(。5.5.6)エアロバティック(。5.5.3)、モーターグライダー(。5.5.4)、パイロンレーシング。